

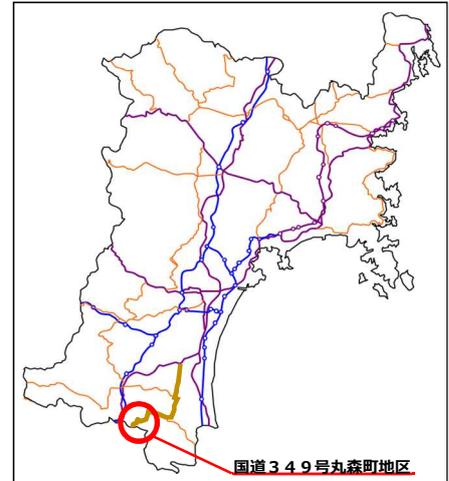
第3回 宮城県道路防災対策検討協議会(国道349号丸森町地区)の概要

1 日時 : 平成30年11月28日(水)
10時00分~11時30分

2 場所 : 宮城県庁11階(仙台市青葉区)

3 出席者
(委員)

飛田 善雄	東北学院大学教授
菊池 輝	東北工業大学教授
遠藤 雅司	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所副所長
籠目 勇一	宮城県土木部道路課長
鈴木 聡	宮城県大河原土木事務所副所長
(オブザーバー)	
和田 眞	福島県土木部道路計画課長



4 議事

- (1) 第2回協議会のまとめ
- (2) 未改良区間のルート・構造選定のポイント
- (3) ルート・構造(案)の比較評価
- (4) 技術的な課題
- (5) 配慮事項
- (6) 今後の検討の進め方

5 議事内容・まとめ

- ルート帯の選定にあたっては、整備目標、整備方針に基づき、冠水想定区域を回避し沿線集落からのアクセス性に配慮したものとすることで了解を得た。
これを受け実現性の高いBルートを基本に、以下の検討を進めることとした。
- 今後、未改良区間について、自然環境・景観への配慮事項、地質特性等の設計条件を整理し、詳細なルート・構造の検討を進める。
- マサ土が広域に分布しているため、防災対策や法面保護工等、トンネルの支保工・補助工法の検討を行う。
- 中間部~終点側のトンネル部は破碎帯の存在が想定されるなど、技術的難易度が高い施工となることが考えられるため、慎重な検討を進める必要がある。
- 自然公園内を通ることから、トンネルにより地形改変を回避し、自然環境・景観に配慮した施工計画の検討を行う。
- 工事に伴う建設発生土が多いことが想定されるため、今後、その利用に努力し、残土量を極力低減することを検討するとともに、施工ヤード、土捨て場の確保、現道交通に配慮した工事計画の検討を行う。